



『一粒の種』（5月9日）を振り返って・・・

＜みんなの感想より＞

- 1 人ひとりがどうするかを考えることで、いろいろな可能性があるのだということが分かった。また、自分がクラスの中でどういったことをするのがクラスに影響を与えて、クラスをよりよいものにできるんじゃないかなと思った。（1組男子）
- 環境が悪いからテンションが上がらないとか、おもしろくないとか思うんじゃなくて、この環境で自分がどうしていくかで環境が良くなるか悪くなるか決まると思いました。（1組女子）
- この先にどうなるかネガティブになるんじゃなくて、自分がやってみる、やってみたら意外とみんなは賛成してくれるって考えていけば一人一人が行動して、もっと良くなっていくと思う。心細くなってしまいうけど、学校が大好きで、みんなも大好きだから、もっと好きになれるように、体育委員としてクラスのメンバーとして、何かをしたい。（2組女子）
- 「誰もやらないし」と自分の意見や気持ちを閉じ込めてしまうのではなく、誰もやらないから自分がその誰かになろうと自分の気持ちを変えることが大切なんだと感じました。この学年には、笑顔の種をまいて、誰もが楽しめる環境をつくっていきたいと思いました。（2組女子）
- 周りを変えなければ、まず自分が変わっていくべき、とよく聞くけれど、自分から一歩踏み出すことはすごく勇気がいると思う。正直私はそんな勇気のいることはできないと思うけど、せめて、頑張って周りを変えようとしている人に対して、一緒に頑張ってあげたいと思う。（3組女子）
- 自分に合わない環境だと「嫌」「無理」と投げってしまうのではなく、その環境をどのようにして最善に持っていくかを考えることが大切だと思った。（3組男子）
- 新しいクラスになって、まだみんなのために何も貢献できていないけど、これからどんな小さな種でも、みんなを笑顔にできる種をまけるようになりたいなと思いました。誰かに任せっぱなしにするのではなく、自分から進んで動けるような人になりたいです。まだクラスにまとまり感がなくて、積極性が少し欠けているけど、クラスのみんな一人一人が種をまけるようになったら、もっと明るいクラスになれるなと思いました（4組女子）
- 僕は種をまけるなら、みんなが抵抗なく種をまけるクラスの種をまきたいと思った。「自分だけが好き」というクラスを作るのではなく、みんなが好きになれるクラスを作るためには、これが必要だと思う。（4組男子）

- 自分が嫌な環境だから背を向けるんじゃないくて、しっかり向き合うことが大事だと思った。「郷に入っては郷に従う」じゃなくて、「郷を作り上げる」ということが分かった。みんなでいい雰囲気にしていくためには、団結したりとか、みんなでみんなを応援していくことがいいと思う。だから、私もみんなを応援していけるようにしていきたいと思った。(5組女子)
- 人にはさまざまな『色』があると思う。自分は明るい色でありたい。自分は華やかな色でありたい。いろいろな色があると思う。それを強制するのは違うと思う。「郷は作り上げる」僕はとても大切だと思った。(5組男子)
- せっかく種を埋めても、周りの人が水をあげてくれなければ育ってくれない。自分でも、周りの人とも、水や日光をあげて、大きく種が育っていったらいいと思った。そのために、みんなと協力します！(6組女子)
- 何か特別大きなアクションを起こせないかも知れないけど、ささいなことでも何かアクションを起こせたらいいと思う。(6組男子)

自分たちの今いる環境は、誰がつくっているんだろう…きっと今回の授業では、今いる環境の中で自分達一人ひとりがどれだけ大事な存在なのかを感じたのではないのでしょうか。「あれが嫌」、「こうだったらいいのに…」生活している中で、そう感じることは少なからずあると思います。その環境を変えようと、思いを発信していますか？そして、行動を起こしていますか？

転校して「前の学校の方が良かった」と気を落とす主人公は、勇気をもって具体的な行動を起こしました。その結果、多くの賛同者が現れ、応援の輪が広がっていきます。授業の中で、「それまで言わなかっただけで、本当はみんなそうなりたと思っていたんじゃないか。」、「一人が行動したことで、“それなら自分も”と広まっていったんじゃないか。」といった意見もありました。この学校で、この学年で、このクラスで、「こうなりたい」と思っていることはありますか？変化を待つのではなく、“自分から”の気持ちで何か、行動してみてもどうでしょうか。あなたは、大切な一人です。クラス、学年、学校をつくっている大事な一人です。みんなで、私たちらしい「郷」をつくっていきましょう！！